

小学校 発問検討ワークシート（入力後）

①教材名	すれちがい	②内容項目	B 相互理解, 寛容
<p>③教材分析 (中心発問で考えさせるために押さえておきたいこと)</p>	<p>水色…相手へのいら立ち 波線…誤解や思い込み</p> <p>よし子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昼食後, 二階でしばらくピアノの練習 ・ 母はおとなりへちょっと出かける <p>・ 母から電話がなかったみたいと聞く 誤解 一時 (どうしたのかな。 早めに電話くれてもいいのに)</p> <p>・ えり子に電話。おつかい中と聞く 一時半 (30分もあれば帰ってくるだろう) 思い込み</p> <p>・ 二時ごろ広場で待っていると伝言を残す</p> <p>・ 二時前に約束した広場へ 約束したと思い込み</p> <p>・ しばらく待つが, えり子は来ない 二時 (電話もしないし公園にも来ないなんて)</p> <p>・ 三時より前に, 一人でピアノ教室に行く</p> <p>・ えり子がやって来て 言い訳 言い訳と解釈 三時 (約束を破っておいて, 今さら) と知らん顔 えり子にとって約束ではない (えり子とはあまりつき合いたくない) 相手を否定する見方・考え方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ピアノ教室に一緒に行こう ・ 三時か四時か, また電話する ・ 広場で少し遊んでから行こう <p>えり子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 母と昼食中に来客。おつかいを頼まれる ・ 四時にしようとしてよし子に電話するが誰も出ない ・ また後でと思って電話を切って飛び出す <p>・ スーパーは大混雑。レジに15.6人並んでいる (困った。よし子に早く電話しなくちゃいけないのに)</p> <p>・ 家に帰り, 母からよし子の伝言を聞く。</p> <p>・ 急いで広場に行くが, よし子はいない (勝手に二時って決めて。こっちの都合もあるのに)</p> <p>・ しばらく待つが, ピアノ教室へ向かう</p> <p>・ 先生の家でよし子に謝ろうとするが, 横を向かれてしまう (私の言うこと聞いてくれてもいいのに) (よし子とピアノ教室に行く約束はしたくない) この場合のみ。相手自身を否定する見方・考え方はない</p>	
<p>④ねらい (この教材で児童に考えさせたいこと)</p>	<p>この授業で押さえないこと：自分を謙虚に見つめる大切さ 相互理解, 寛容 我慢でも自己犠牲でもない 私たちの生活で大切なこと</p> <p>私たちは, 自分の一方的な思い込みや見方で相手を責めてしまいがちであることを自覚し, すれちがったときこそ, 広い心で相手の気持ちや立場を尊重し, 謙虚に相手と接しようとする態度を養う。</p> <p>謙虚に自分を見つめる, 自分の一方的な見方があるんだ ←この授業はこちらの違いが豊かさになる (主題名：相手の気持ちや立場を考えて)</p>		
<p>⑤めあて (授業冒頭, 児童に提示するもの)</p>	<p>すれちがったときには, どんな心を大切にするとよいのだろう。 授業の初めに示して, 子供たちに課題意識をもたせる手立て。</p>		
<p>⑥基本発問</p>	<p>どんなすれ違いがあったかを考えさせておきたい。 基本発問1：二人の間に, どんなすれ違いがあったかを整理してみよう。 小さな国語にならないように注意しながら整理する。 気づいたすれ違いを出してもらって(事実だけ, 思いはいったん置いておく) 時間をかけずに整理する。</p>		

	<p>よし子が誤解していることが多い。</p> <p>基本発問2：よしさんはえり子さんに対してどんな思いでいたのだろう。</p> <p>一方、えりさんはどんな思いだろう。</p> <p>よし子に比重を置きながら問う。</p>
<p>⑦中心発問・問い返しなど (ねらいを達成するための発問)</p>	<p>中心発問：二人に足りなかった考えは何だろう。</p> <p>あいてにも事情があったのかなと相手の話を聞くことも大切 自分の事情もきちんと相手に伝えることが大切。</p> <p>誤解の前提になる、「自分ばかりが心配していた」←怒ってしまう要因 相手も自分を心配してくれていたんじゃないか。 よし子は自分のことばかりを考えてしまっていた。</p> <p>めあて（再提示）：すれちがったときにはどんな心を大切にするとよいのだろう。</p> <p>●相手に対する考え方</p> <p>相手の立場を大切にする。 相手の立場を想像してみる。 相手も心配してくれている、という相手を信頼すること 自分の思いも相手にきちんと伝えることも大切。 →相手も信頼してくれているんだから、自分も信頼する。 相互信頼。 →最初は「どうしたのかな？」と心配から入っているはず。 「心配かけたね」から入る</p> <p>●自分に対する考え方</p> <p>自分に足りないところはなかったか考える。 一方的に見ている自分に気づく。 →子どもたちもよし子に共感しやすい。できない自分。 どうして私たちはできないんだろう？→自分の見方にこだわってしまう弱さ。 中学校でも高学年でもできない自分、弱さに気づきに行くのは大切。 「よし子は」ではなく「私たちは」で、自己を見つめやすくする。</p>
<p>⑧展開後段の発問</p>	<p>発問：すれちがったときに、相手の事情や気持ちを考えて、すれちがい乗り越えようとしたことはありますか？ そのときにどんなことを考えてすれ違いを乗り越えようとしたか？</p> <p>子どもたちもこういう経験はなかなかない。</p> <p>あのとき、謙虚に見つめることが必要だったな、という子もいていいし、あいての話をきちんと聞いたという子もいていい。</p> <p>うまくいかなかったという話を言えるような学級基盤も必要。</p> <p>すれ違いは日常的にある。「どうして許してあげられたのか」を聞いておいて、自分を謙虚に見つめる気持ちを引き出して紹介し、自分の中にもあると気付けるようにする工夫も必要。</p> <p>ふだんの教育活動全体で、難しい内容項目については意識して子どもたちに接して</p>

※発問検討の記録です。動画で紹介していない部分も含まれています。
※記録のため、誤字脱字などが含まれている場合があります。

	いく。
	<p>→上手に板書にまとめることが必要 →出来事だけに関心を向けず、もともとの考えなどに意識が向くように。</p> <p>相互理解，寛容が実現していない→戦争 自分たちが正しいんだ 今の社会は多文化共生。</p> <p>この授業は1時間で完結しない。この授業をきっかけに今後考えていくよりどころになる授業になれば。</p>